

平成28年度

阿南市立山口小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 1 児童が自ら考え、判断し、成就感を味わうことができる学習活動の展開
- 2 互いの考えを伝え合う話し合い活動の活性化
- 3 家庭学習・家庭読書の充実

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 漢字の読み書きや整数の四則計算などについては、ある程度定着がみられる。	①国語や算数の基礎的知識・技能を確実に身につけることができる。 ②話し手を見て、受け止めながら聴くことができる。	①基礎的基本的な事項についての確認テストの正答率を85%以上にする。 ②常に話し手の方を向いている。	既習の学習内容の定期的な復習を継続する。 ほめ言葉、あいづち言葉など聴き方の具体的なモデルを示し、使わせる。	①単元ごとの確認テストで定着状況を確認しながら、既習事項の復習や漢字の書き取り課題を継続して行った。 ②話し合いの前に聴き方のめあてを確認するようにした。聴き方がよかったときには即時評価をして定着を図った。	①国語や算数の基本的な事項については、85%の正答率をほぼ達成することができた。 ②集会の場面では、ほとんどの児童が話し手を見て聴くことができるようになった。授業中はできるときとできないときがあった。
課 題 既習事項を忘れていたり、習得状況に個人差が見られたりする。 話を聴く態度が身につけていない児童がいる。	具体的方策(教員の取組) ①国語・算数のドリル学習と確認テスト、既習事項の復習を継続して行う。児童一人ひとりの課題を把握し、個別に支援する。 ②モデルを示し、話し合いの基礎となる聴き方を身につけさせる。	取組指標 ①単元ごとに定着確認テストを行う。月に1回は既習事項を復習する。 ②月に1回は児童の聴き方を評価する。		次年度における改善事項 A ・教師・児童ともに負担が少なく、基礎的・基本的な内容(特に計算)が繰り返しできる方法について開発する。 ・学年にかかわらず、個人の実態と課題に応じた既習の学習内容(九九や筆算、漢字など)の復習を継続する。 ・聴き方の評価の日を決めるなど、教師評価と児童評価を定期的実施し、相互に課題を認識できるようにする。 ・聴き方の具体的なモデルの示し方を工夫して児童が使えるようにし、全員の聴く態度の向上を図る。	

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 音読や劇の発表など、方法や手順のわかっている表現活動には意欲的に取り組める。 積極的に自分の意見を発言できる児童が増えてきた。	他の人の考えを聴き、自分の考えをまとめて、話したり書いたりして、伝え合うことができる。	①友達の発言を聴いて発表できている児童を70%以上にする。 ②考えを書くことが好きと答える児童を50%以上にする。	自分の考えを書く活動や話し合う活動をさらに充実させる。	毎日の学習活動の中に、感想や説明する文を書く活動を取り入れ、ホワイトボードやICT機器を使って発表させるようにした。	①友達の発言を聴いて発表できている児童の成果指標70%をほぼ達成できた。 ②自分の考えを書いて発表することに慣れてきて力がついてきた。
課 題 他者の考えを聴き、自分の考えを説明する力に課題がある。	具体的方策(教員の取組) 学習活動の中で、自分の考えを書く活動を意図的に設け、ホワイトボードやICT機器を用いて発表させる。	取組指標 1日1回は、自分の考えを書いたり、発表したりする活動を取り入れる。		次年度における改善事項 A ・相手を意識した発表の機会を増やし、自信をもって話したり、言葉で分かりやすく説明したりできるようにする。 ・児童が学級の活動の様子を見合うことで、よいモデルに触れたり刺激を受けたりする機会を増やす。 ・あたたかい聴き方や話し方の指導とともに、児童が認め合え、のびのびと学ぶことができる空間づくりに努める。 ・ホワイトボードに簡潔に書いて、考えを説明できるようにする。	

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 与えられた課題にはまじめに取り組む児童が多い。 自主的に家庭学習に取り組む児童が増えてきている。	①主体的に授業に取り組むことができる。 ②家庭で、学年の目標時間以上学習をすることができる。	①学習後の振り返りで、すすんで学習した児童を、70%以上にする。 ②学年に応じた目標学習時間を達成できた児童を80%以上にする。	ICT機器を積極的に活用する。 学年に応じた自主学習の仕方を具体的に示す。 図書室や移動図書館の利用促進を図る。	①研究授業では、課題の設定やICT機器の効果的な活用について話し合い、共通理解を図りながら全校で取り組んだ。 ②家庭学習充実週間には振り返りカードを活用し、家庭の協力を得ながら家庭学習の充実を図った。自主学習がよくなった児童は手作りシールで称賛したことで意欲が向上した。	①学習後の振り返りで、成果指標の70%をほぼ達成できた。 ②振り返りカードの回数を重ねるにつれて、児童の家庭学習に対する意識の高まりが見られるようになってきた。80%の児童が家庭で目標時間学習できているが、個人差が大きい。
課 題 少人数のため、学習が受け身になりがちである。 宿題以外の自主学習の取組や読書量については、個人差がみられる。	具体的方策(教員の取組) ①児童の実態や課題をもとに、適切な学習課題を設定する。 ②家庭学習充実月間を設け、家庭学習振り返りカードを用いて家庭と協力して取り組むことができるようにする。	取組指標 ①研究授業のたびに、目標設定の仕方について話し合う。 ②自主学習がよくてきている児童を称賛する。		次年度における改善事項 B ・アクティブ・ラーニングについての研修を深め、意欲的に学んだ学習について、資料の交流等で共通理解を図る。 ・ICT機器の研修を重ね、積極的に活用する。 ・自主学習カード等で児童が自己評価できるようにし、家庭と連携して学習活動を充実させる。 ・読み聞かせを増やしたり、毎週図書室で図書を借りさせたりして、読書量を増やす。	

平成28年度 学力向上ロードマップ

